



まくべつ

わたしたちのまち

(昭和63年3月1日現在)

人口	21,782	(+9)
男	10,627	(+4)
女	11,155	(+5)
世帯数	6,681	(+1)
一人のうごき(2月中)		
転入	43人	転出 52人
出生	28人	死亡 10人

|||||||||||||| 生きる喜びを創造するまち・幕別町 (新総合振興計画) |||



思い出の校舎に別れ

町内各中学校の卒業式が3月15日に行われ、卒業生たちは思い出の校舎を後にしました。ここ札内中学校では98人が卒業。玄関前で先生や在校生の見送りを受けた卒業生は、恩師一人ひとりと握手。中には涙をこぼす生徒もいて、いつもながらとはいえ、感動的でさわやかな卒業式の風景でした。

63年 **4**

No.435

札内スポーツセンター

64年度に完成

昭和63年度の予算が決まる

一般会計は75億1千2百万円

幕別中学校校体育館を全面改築

定例第一回町議会が三月八日から二十九日までの二十二日間を会期に開かれ、六十三年度予算を決めました。

林町長は行政執行方針演説の中で「昭和六十三年度予算の編成に

当たりましては、極めて厳しい財政環境にあることを踏まえ、経常経費の抑制に努めることはもとより、行政の簡素化・効率化を徹底させるとともに、事務事業の緊急性、優先度を十分考慮の上、限られた財源の重点的かつ効率的な配分に努めました。財政事情の厳しい中ではありますが、健全な財政運営に意を用いながら、社会情勢の変化に対応し、住民ニーズの的確な把握に努めて弾力的執行を心がけてまいりたいと考えています」と述べ、新年度予算案を提案し、議決されました。

新年度の予算は、歳入面では町税、地方交付税が国内経済の動向からして大きな伸びが期待できない一方、歳出面では義務的経費の増大、住民の行政要望の増大・多様化により、厳しい財政状況にあ

ります。このことから、経常経費の一層の節減合理化を図りながら限られた一般財源の中で、町民の皆さんの要望にどのように応えていくかが大きな課題になってい

ます。六十三年度の予算は、一般会計七十五億一千二百萬一千円、九特別会計五十一億六千三百三十六萬八千円、合わせて百二十六億七千五百三十六萬九千円と決まりました。これを六十二年当初予算と比較しますと、同予算が骨格予算という性格から、一般会計は二・三・八%の増、特別会計は二・九%の増、全体では一四・三%の増になっていきます。投資的事業を盛り込んだ前年六月補正後の予算との比較では、一般会計は二・四%の減、特別会計は二・六%の増、全体では〇・三%の減でほぼ前年並みの予算となります。しかし、本年度から二カ年計画で建設予定の札内スポーツセンターの建設事業費が年度内に補正される見込みですので、前年を若干上回る予算規模になります。

また、町財政の主要な財源である町税は十三億八千八百九十一萬二千元を見込んでいますが、六十二年と比較して一・二%の伸びにとどまっています。

多様化する町民の皆さんの要望を実現するためには、国や道、そして皆さんが納められたお金だけでは十分ではありません。そこで国や金融機関などからお金を借りたり(町債という)、町の貯金である財政調整基金から繰り入れたりして事業を行っています。六十三年度も財政調整基金から繰り入れられ、また、五億八千七百八十萬円の借金をし、行政水準の低下を防いでいます。

以下、四つの重点目標に沿って新年度の重点施策の概要を紹介いたします。詳細については来月号からの広報で紹介いたします。

■生活環境の整備

今年三月末現在の道路状況は町道六百四十七本、総延長六百五十四キロメートルで、舗装率は二九・三%になっています。本年度は明野二十五号線舗装新設工事、札内八号線

過去5年間の当初予算額 (単位：千円)

年度	一般会計	特別会計
59年	6,920,189	3,431,417
60年	7,343,524	3,928,221
61年	7,470,997	4,579,573
62年	6,069,572	5,016,505
63年	7,512,001	5,163,368

※62年は骨格予算

道路改良工事など二十九路線の改良・舗装工事を行います。これにより六十三年度末では三一・七%の舗装率になります。

公園整備では、継続事業として明野ヶ丘公園と止若公園の整備を、新規には児童公園として「桜町北公園」の整備を行います。

下水道事業では、流域関連公共下水道としての札内地区については、本年度は中継ポンプ場の機械設備、札内幹線などの整備を行い

特別会計 (単位：千円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較
国民健康保険特別会計	1,233,290	1,128,742	104,548
老人保険特別会計	1,076,514	1,003,022	73,492
簡易水道特別会計	18,229	20,035	△1,806
飲料水供給施設特別会計	7,850	7,203	647
営農用水道特別会計	16,796	10,454	6,342
公共下水道特別会計	1,329,170	1,119,702	209,468
土地区画整理事業特別会計	684,679	1,007,235	△322,556
国民宿舎事業会計	320,728	324,088	△3,360
水道事業会計	476,112	396,024	80,088
合計	5,163,368	5,016,505	146,863

歳入 一般会計 (単位：千円)

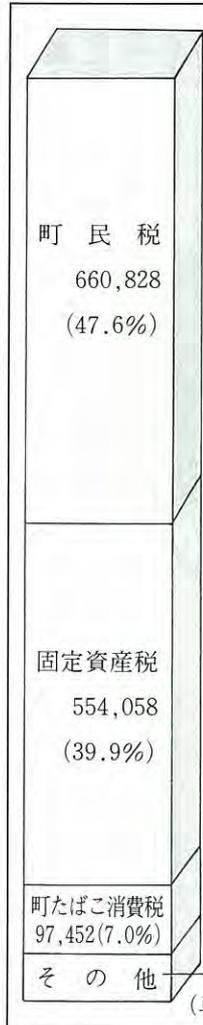
科目	本年度予算額	構成比	前年度予算額	比較
地方交付税	2,896,721	38.6%	2,802,997	93,724
町税	1,388,912	18.5	1,372,613	16,299
諸収入	630,983	8.4	641,518	△10,535
町債	587,800	7.8	173,900	413,900
道支出金	547,946	7.3	243,199	304,747
国庫支出金	405,714	5.4	162,105	243,609
分担金・負担金	370,604	4.9	90,540	280,064
譲与税・交付金	268,396	3.6	255,600	12,796
繰入金	200,000	2.7	100,000	100,000
使用料・手数料	171,229	2.3	167,853	3,376
その他	43,696	0.5	59,247	△15,551
合計	7,512,001	100.0	6,069,572	1,442,429

町税の内訳

六十三年度の一般会計予算は七十五億二千二百一十千円ですが、町民のみなさんから直接・間接に納めていただく町税は十三億八千八百九十一万二千円（前年比一千六百二十九万九千円増）で、歳入全体に占める割合は十八・五％です。（前年は骨格予算のため二二・六％）町税のうち最も多いのが町民税で、個人と法人を合わせて六億六千八十二万八千円です。この

うち個人の所得にかかわる個人分は五億三千三百六十七万四千円で、これを今年一月一日現在の納税義務者数七千二百五人で単純に割ると、義務者一人当たり七万四千七百七十円になります。また、人口一人当たりでは二万四千四百九十三円になります。

町民税のほか、固定資産税をはじめ町たばこ消費税、軽自動車税、電気税、入湯税、特別土地保有税が町税で、これらの税金が町の収入となります。



歳出 (単位：千円)

科目	本年度予算額	構成比	前年度予算額	比較
土木費	1,320,013	17.6%	920,916	399,097
農林業費	1,257,347	16.7	493,316	764,031
公債費	1,136,059	15.1	1,117,843	18,216
民生費	969,739	12.9	971,200	△1,461
教育費	947,281	12.6	683,957	263,324
議会・総務費	888,323	11.8	905,104	△16,781
消防費	337,578	4.5	331,660	5,918
衛生費	323,842	4.3	327,824	△3,982
商工費	315,887	4.2	278,488	37,399
労働費	10,932	0.2	10,575	357
その他	5,000	0.1	28,689	△23,689
合計	7,512,001	100.0	6,069,572	1,442,429

ます。供用開始は昭和六十四年度を予定しています。

■福祉と健康の増進
老人福祉では、老人クラブの活動がさらに充実するように老人クラブへの補助金を増額しました。昨年までは一人当たり千二百円でしたが、本年度から一人当たり千四百円になります。

地域福祉では町民会館の自動ドア化、公共施設のスロープの設置、道路の段差解消などを行います。保健・予防では、本年度から四十歳以上の方を対象にした肺ガン検診と乳ガン検診を新たに実施し、成人病予防体制の充実を図ります。

産業の振興

農業基盤整備事業は、本年度の事業費は二十五億六千万円になります。新規事業としては、道営相川地区畑地帯総合整備事業が着工されます。また、農協が事業主体となつて、コンバインやコーンハーベスターを導入したり、長いもの貯蔵庫を設置するなどの事業を行います。

教育条件の整備

老朽化が著しい幕別中学校体育館の全面改築が行われます。事業費は約二億三千万円です。

社会体育施設では、「札内スポーツセンター」の建設に着手します。当初予算では設計コンペ費（二百万円）を計上し、用地取得費と建設費については年度内に補正し、六十四年度完成を予定しています。

第11回「明るいまちづくり」住民大会

活発に意見交換



今年で11回目を迎えた「明るいまちづくり」住民大会

町手づくりのまち推進委員会（高橋次郎会長）の主催により、第十一回幕別町「明るいまちづくり」住民大会が三月二十日、町民会館で開かれました。今回のテーマは「心豊かな家庭と地域と郷土づくりをめざして」で、約百二十人の町民が参加しました。開会式に続いて午前中は事例発表と講話、午後からは分科会に分かれて、活発な意見交換が行われました。

この大会は、明るく豊かな町民生活を確立して、まちの活性化を図り「住みよい活力のあるまち」をつくるため、日常生活の中で考えていることを多くの人たちと語り合い、生きる喜びを創造するまち幕別町」を創り出そうとするものです。昭和五十三年に第一回大会が開催され、今回で十一回目を迎えました。第一回から第五回までは教育委員会が主催していましたが、第六回大会から「手づくりのまち推進委員会」が主催する住民主体の大会になっています。今回は「心豊かな家庭と地域と郷土づくりをめざして」をテーマに、約百二十人が参加して行われました。



事例発表する前田さん

事例発表 花壇づくりを とおしての地域づくり

札内中央町第三公区（矢野善七公区长）の副公区长であり、手づくりのまち推進委員である前田博さんが、古タイヤを利用しての花壇づくりをおして地域づくりに取り組んでいると事例発表をしました。以下、内容の一部を紹介します。

昨年四月に公区内の集まりがあった時に、昨年のこの大会の内容を紹介しました。住民運動は話し合いばかりでなく実践することが大切で何かやろうということになり、ホイール付きの古タイヤを利用してカップ花壇をつくり、公区内を花と緑でいっぱいにしようとい

うことになりました。

古タイヤをどうやって集めるか土や肥料などをどうするかなど数回にわたって検討し、どうにかタイヤも集まり五月二十五日からカップ花壇づくりを開始しました。毎日夕方六時から夜おそくまで楽しみながら百八個のカップ花壇を作成しました。各戸の了解を得て設置場所を決定し、各戸が思い思いに花を植え、個性のあるものになりました。冬期間は除雪に支障のないように各戸で保管しています。ささやかではありますが、地域を花で飾ることが成功しました。大黄河も源流をたどれば一しずくの水です。小さな力ではありますが、協力して地域づくり、町づくりに取り組んでいきたいと思えます。

話 住民の熱い願望を 的確に受けとめて

林照男町長が幕別町の今後のまちづくりの方向、プランなどを分かりやすく説明しました。内容の一部を紹介します。

幕別町は豊かな自然と十勝の中核都市である帯広市に隣接しているという立地条件に恵まれ、九十年の歴史の中で着実に大きくなっています。

北海道・幕別の歴史をつくってきた中心産業は農業であったこと



講話する林町長

はまぎれもない事実です。しかし今日の農業は経済の構造改善をまじめに受け、非常に厳しい状況にあります。町づくりはいろいろな動きの影響を受けます。よきにつけあしきにつけ影響を受けますが、今は悪い方で影響を受けていると思います。農業の動向がまちづくりに影響を与えますが、農業の先行きが不透明であり、町づくりの面でも計画的に仕事を進めていく上で不透明な時代になりました。しかし、町づくりに対する熱い願望が住民にあり、その願望を的確に受けとめていかなければなりません。住民と行政が一体となって、この困難な時代を乗り切りたいと考えています。

財政的には国からの補助金など一律削減や税収入の伸び悩みなどで、どここの自治体も厳しい状況にあります。こうした中で緊急度や優先度、住民の要望などを十分考慮した上で、計画的に町づくりを進めていかなければなりません。さて、町づくりの計画ですが、昭和六十五年度から十一年の町づくりの計画を策定します。今年か

ら準備に入りますが、開基百年に向けての内容も盛り込みたいと考えています。具体的には老朽化した幕別温泉ホテルをどうするか。町民の保養施設として長い歴史があり、時代に合った施設が望まれています。外にも幕別・札内駅前が開発、旧途別川の河川改修、札内川河川緑地の整備などたくさん課題をかかえています。これらを住民の皆さんの声を大切にしなから解決していきたいと思えます。

第1分科会
◆明の地域社会(ひん)
地域ぐるみで
あいさつ運動を

■明るい家庭づくりと青少年の健全育成

▽学校のPTAの活動が型にはまったものになってきた。
▽子供に対する親の期待が大きすぎて、子供が伸び伸びと育つ芽を摘んでいるのではないか。

▽子供は親の背中を見て育つといわれているが、力強い親の背中が見せられない。
▽町児童生徒健全育成推進委員会で発行している冊子「道しるべ」を読んでほしい。

■高齢化社会に対応する地域づくり

▽昨年公区で老人クラブを結成したが、思うように集まらない。
▽老人と子供の世代間の格差がある。家庭内の話し合いがないのではないか。

▽町は室内ゲートボール場をつくったが、利用できない老人に別な形のサービスを考えてほしい。
▽地域での交流が必要である。そのためには老人から子供まであいさつ運動をすることが必要。

▽毎月老人クラブの例会を行っているが、婦人の方々が手づくり料理でサービスしている。
■地域の文化を高める運動

四日に伝達式が行われました。

長年幕別町公平委員を務められた緑町、森田宣雄さん(故人)に対して勲五等瑞宝章が授与され、二月二十



故 森田宣雄さんに
勲五等瑞宝章

伝達式には内藤健一十勝支庁長が来町し、故森田宣雄さんの奥さんの美恵さんに手渡されました。

▽ふるさと館の開館十周年を記念して各家庭が保存している古い資料や生活用品を掘り起こし、一定期間ふるさと館に展示しては。
▽町内の旧跡をみんなでゆつくりと見て歩けるような企画を。
▽乱開発によって貴重な旧跡が破壊されないよう、由来を書いた看板を立てては。
▽郷土芸能を大切に伝承する。

第2分科会
◆美しい生活環境づくり
町花・町木のPRを

■ふるさとの自然を守る運動

▽空カンの散乱防止は息の長い運動である。ある地域では一歩毎に空カン入れを置いたが、一個も空カンが入っていないかった。
▽温泉熱を利用してハウスをつくり、お年寄りが花の苗づくりをするよう行政でできないか。
▽花壇コンクールをする前にPR



内藤支庁長から勲章を手渡される美恵さん



活発な意見交換が行われた分科会

第3分科会
◆新しい生活価値観づくり
勇断をもって
供花紙の利用を

■形式的生活習慣の見直しと合理的な生活確立運動

▽供花紙の利用を勇断をもって推進すべきだ。

▽公区長が公区の総会に提案し、供花紙の利用の意見とりまとめをしてほしい。

分科会での意見の一部を紹介しました。これらの意見は私たちが直面している地域課題です。この貴重な意見を意見だけに終わらせることなく、各地域がよりよい「まちづくり」のために、住民運動などの活動へ展開させていくことが大切ではないでしょうか。

善行賞受賞者

町児童生徒健全育成推進委員会による善行賞受賞者は次のとおりです。

▽札内中学校総合文化部 道路清掃、交通安全運動、老人ホームへ生徒作品を展示するなどのボランティア活動を実践。

▽札内南小学校児童会 全校区のゴミ拾い奉仕活動、古切手収集老人ホーム慰問などのボランティア活動を実施。

▽若草町公区子ども会 五月から十月までの半年間、毎月公区内の清掃、老人ホームへの慰問などのボランティア活動を実施。

▽松井かおりさん、遠山慎子さん(いずれも幕別高校2年) 昨年十一月三十日に列車内の忘れもののハンドバッグ(七万五千円在中)に気付き札内駅に届け、無事持主のお年寄りに手渡された。

▽藤原広君、三谷博規君、安彦由君(いずれも札内南小六年) 昨年四月九日下校途中、特養老人ホームから無断外出中の老人を見つけ保護にあたる一方急報し、無事帰寮させた。

▽渡部悟史君、本川健志君、川村秀樹君、池田智也君、小松登君、村秀樹君、倉金康行君、宮部訓君、小杉純君(いずれも札内中3年) 冬期の降雪期には早めに登校し、自主的に除雪して全校生の手本となった。

農家戸数は依然として減少傾向

1戸当たりの耕地面積は17.5ヘクタールに

63年農業基本調査の結果(概数)

より充実した農業行政を行うための資料となる「昭和六十三年北海道農業基本調査」が二月一日現在で実施され、その結果(概数)がまとまりました。

農家戸数は依然減少傾向が続き、八百六十四戸で前年に比べ十七戸の減となっています。農業従事者は五百人増の二千六百六十五人です。また、農家一世帯当たりの平均耕地面積は、前年度より〇・六ヘクタール増え、十七・五ヘクタールになりました。

●農家戸数と農業従事者数

農家戸数は八百六十四戸。これを専業別でみますと、専業農家は六百二十三戸(前年六百四十四戸)で全体の七二・一%を占め、農業のかたわら他の仕事をしている人がいる一種兼業農家が二百戸(前年百七十六戸)で二三・一%、農業以外の仕事に就き、片手間で農業に従事している二種兼業農家は四十一戸(前年六十一戸)で四・七%となっています。(図一参照)

また、世帯員数は三千九百五十五人(前年四千六十人)で一世帯当たり四・六人となっています。このうち農業に従事している人は、二千六百六十五人(一戸当たり三・一人)で、従事率は六七%となっています。これを昭和五十年と比較してみますと、世帯員数で一千二百三十八人、従事者数で六百八十三人の減となっています。

●耕地面積

耕地面積は一万五千百三十一・五五ヘクタールで前年に比べ二百四十三・六七ヘクタールの増となりました。この内訳をみますと、田が十六・九四ヘクタール

図-2 農家数と一世帯当たりの耕地面積

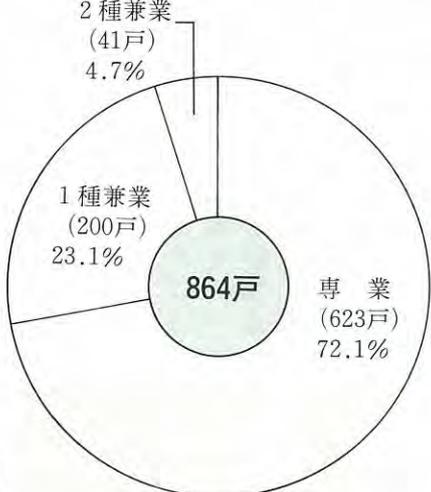
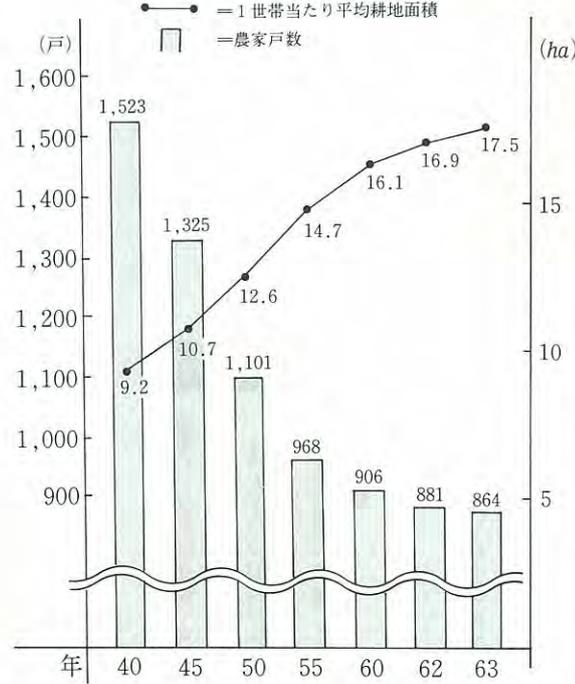


図-1 専業別農家戸数

で前年に比べ一・八六ヘクタールの減、畑は一萬五千三十五・六六ヘクタールで前年に比べ百六十六・五八ヘクタールの増となっています。また、一戸当たりの平均耕地面積は十七・五ヘクタールになります。図一からも分かるとおり、一戸当たりの平均耕地面積は年々増え続け、昭和四十年と比べると

●家畜

乳用牛を飼育している農家は百六十八戸(前年百七十戸)、飼育頭数は六千六百五頭(前年六千五百

八・三ヘクタール増えています。その反面、農家戸数は減少を続け、昭和四十年よりも六百五十九世帯減りました。

表-1 乳用牛及び肉用牛の飼育状況

区分	年	45年		50年		55年		60年		61年		62年		63年	
		戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
農家1戸当り	乳牛	9.5	16.3	28.2	34.3	35.4	38.3	39.3							
	肉牛	11.8	17.0	19.3	20.0	21.7	28.1	24.2							

十頭)で、一戸当たり平均で三十九・三頭(前年二十八・三頭)になっています。

肉用牛は、七十二戸(前年六十戸)一千七百三十九頭(前年一千六百八十三頭)で、一戸当たり平均で二十四・二頭(前年二十八・一頭)です。(表一参照)

62年度文化・スポーツ奨励賞

十一団体四十六個人が受賞

町教育委員会による、昭和六十二年文化・スポーツ賞等表彰式が三月二十六日、町民会館で行われました。

りです。なお、敬称と実績は省略させていただきます。

〔少年文化奨励賞〕

- 少年文化奨励賞一団体十六個人
- スポーツ奨励賞三個人、ジュニアスポーツ奨励賞十団体二十七個人
- の合わせて十一団体四十六個人が受賞しました。受賞者は次のとおり
- ▽塚田倫子(札内北小) ▽佐々木健志(札内中) ▽富田純子(同)
- ▽山田徳洋(糠内中) ▽沖田陽子(幕別中) ▽桜井真奈美(幕別小)
- ▽横山加奈(同) ▽嵯峨秀一(同) ▽那須美智子(同) ▽那須恵美子

昭和62年度幕別町文化・スポーツ表彰式



町民会館で行われた表彰式

- (同) ▽橋本裕子(同) ▽平諱和恵(幕別中) ▽笹島真由美(札内南小) ▽佐藤佳子(同) ▽高田真衣(同) ▽藤野展子(札内東中)
- ▽札内東中学校三年一組
- 〔スポーツ奨励賞〕
- ▽須田昇一(春日町) ▽宮川栄一(南町) ▽今福亜希子(旭町)

〔ジュニアスポーツ奨励賞〕

- ▽札内南小学校三年リレーチーム
- ▽幕別小学校四年男子四百リレーチーム
- ▽幕別小学校四年女子四百リレーチーム
- ▽幕別小学校四年男子四百リレーチーム
- ▽幕別小学校六年女子四百リレーチーム
- ▽幕別小学校六年男子四百リレーチーム
- ▽札内南小学校男子水泳チーム
- ▽白人野球少年団
- ▽札内中学校野球部
- ▽札内中学校卓球部男子
- ▽幕別中学校女子卓球チーム
- ▽福島亭(幕別小)
- ▽中山乃(同) ▽山本秀美(同)
- ▽逢坂剛典(同) ▽佐藤幸恵(同)
- ▽葛西賢太郎(同) ▽菅谷亜加里(同) ▽植津悦典(札内北小) ▽窪田尚子(札内南小) ▽茶木正利(札内東中) ▽保前悦邦(同) ▽沢本圭悟(札内南小) ▽高橋佳都美(札内南小) ▽藤原広(同) ▽水野しのぶ(同) ▽中野聖(同) ▽渡辺安岐穂(同) ▽吉島直人(途別小) ▽中山仁(幕別中) ▽横山香織(同) ▽木村尚樹(同) ▽上面真利(同) ▽岡本あけみ(同) ▽武田智美(同) ▽伊藤咲織(札内中) ▽城石行一(札内東中) ▽工藤美幸(札内中)

北欧四カ国視察記

幕別町長 林 照男

日本同様

厳しい

フィンランドの

農業情勢

北海道町村会が派遣する第四次北欧生活環境視察団の一員として参加の機会を得て、初めての貴重な体験をさせていただきました。

「百聞は一見に如かず」の言葉どおり、夢中のうちに無事全日程を終えることができました。今回の視察地は特に本道と気候・風土が類似している北欧諸国であることから、今後の町づくりの新たな発想になればと大きな期待をもって参加しました。以下、視察のいくつかの点について記してみたいと思います。

フィンランドは国土の約七〇％が森林で、この豊かな資源を利用して工業化が進められてきた。従って農地面積は極めて少なく一戸当たり平均では農地十畝、森林が三十五畝とのこと。フィンランドの農業も様々な問題をかかえている。一つには農業者の高齢化。農業従事者中五十五歳以上が二三％

にもなり、後継者不足が深刻になっている。次には負債が多いこと。さらには作物の生産調整。牛乳は三〇％、鶏卵は六〇％が過剰生産とのこと。農畜産物の生産量は農業者の研究、努力、新技術の開発等によって増加し、需要と供給のアンバランスが拡大されている。このような状況が続くと一九九〇年には一〇％の畑が過剰になるといふ。このような問題を抱えながらもいかにして農業を守り振興させていくか。その一つの方法として集約的な農業を目指しての共同化、市場性の高い新たな作物の開発研究に意欲的に取り組んでいる。

日本においても農業を取りまく環境は厳しく、優れた経営技術、豊かな基盤を持ちながらもその技術、基盤を駆使できず、明るい展望の持てない不安定な状況にある。しかし地球上全体のこととして考えると、一方では食糧不足によって多くの人たちが飢餓に苦しんでいる現状を考えると、人類の生命を保持し、育くむ農業をより国際的な視野に立つて考えなければならないとの感を深くした。

一つづく



糠内中学校の3年生28人が卒業記念にと、自分たちで飼育したサケの稚魚300匹を3月10日、近くを流れる糠内川に放流しました。生徒たちは「元気に帰って来いよ」と願いを込め、川の中を泳ぐ稚魚の姿を目で追っていました。

卒業生がサケの稚魚を放流

お年寄りの学習の場である「しらかば大学」の卒業式と修了式が三月十七日、幕別町民会館で行われました。この日は軍岡の野瀬ツ子さん(七〇)ら四人の卒業生に卒業証書、学年、大学院修了者百六人一人ひとりに修了証書が手渡されました。



「しらかば大学」でも卒業式



全国書初大会で最高位



全日本書芸文化院主催の六十三年全国書初大会の中学三年生の部で、新川の平沢和恵さん(二五)が最高位の同文化院賞に輝きました。和恵さんは「中学時代のいい思い出になりました。高校に行つてからも書道を続けます」と喜びを語っていました。

新田ベニヤ工業から町にパークゴルフ道内普及状況板の寄贈がありました。同板は縦1.1m、横1.2mの合板製で、すでにコースのある29市町村と計画中の24市町村が青と白のピンで表示されています。

パークゴルフの道内普及状況が一目りよう然



幕別町をPRしてください。

マチの写真入り名刺台紙のご利用を

町では、幕別町をよりPRするために写真入り名刺の台紙を作成しました。他市町村の方に使用する場などにご利用ください。写真はいつでもカラーで十勝・幕別町の冬の風物詩としてすっかり定着した途別川に飛来する町の鳥・白鳥の一群、ふるさと館でふ化したサケの稚魚の感動的

でユーモラスなシーン、五月下旬からピンクのじゅうたんのように咲き乱れる明野ヶ丘公園の町の花・シバザクラ、昨年の十月に日本で初めて猿別川で行われたサケの川釣り・サーモンダービー、そして幕別町で生まれたニュースポーツ・パークゴルフのサーモンコースが二点の計六点了。印刷代は六点一組百枚(一点十六〜十七枚)で千円です。ほかに写真を入れたり、指定以外の文字を使う場合は別途料金がかかります。東光印刷(錦町)、土合印刷(若草町)でお求めください。



広報クイズ ⑬

500円の図書券が当たる

三つの答えの中から正しいものを選び、はがきを書いてお送りください。

- 3月1日現在の幕別町の人口は
 ①A20,782人 ②B21,782人 ③C22,782人
- 63年度の幕別町の一般会計の予算額は
 ①A約70億円 ②B約75億円 ③C約80億円
- 今年体育館が改築される学校は
 ①A幕別中学校 ②B札内中学校 ③C札内東中学校
- 2月1日現在で農業基本調査が行われましたが、一戸当たりの平均耕地面積は
 ①A15.5ha ②B16.5ha ③C17.5ha
- 幕別町をPRする写真入り名刺台紙ができましたが、次のうち写真に入っていないものは
 ①Aカシワ ②Bハクチョウ ③Cシバザクラ

【応募方法】

★はがきに答えの記号(例①-A)、住所、氏名、年齢と、ご意見ご要望、広報を読んで一言などを書き添えてください。

全問正解の人の中から抽選で5人に500円の図書券をプレゼントします。応募は1人1通に限ります。ご意見などのほか、イラスト、漫画、詩、コントなども大歓迎です。イラストや漫画は黒色で濃くかいてください。

★あて先☎089-06 幕別町本町130

役場内・広報係

★締め切り=4月15日(15日の消印有効)

★前回の正解は、①-B、②-A、③-B、④-C、⑤-Aでした。応募50通で全員が全問正解。抽選で次の5人が当選しました。

(敬称略)

加藤祐子(6・栄) 長内絵理子(9・泉町)
 阿彦里枝(12・西町) 久保竹子(35・古舞)
 佐々木秀子(57・若草町)



みんなの ハガキ一言



続・幕別ものがたりが先月号で最終回を迎えました。たくさんの方の幕別のこと(歴史)がわかりました。調べてくださった方々、大変ご苦労様でした。↓若草町 入谷宏(?)

◆：続・幕別ものがたりはふるさと館の郷土史部の皆さんに執筆していただきました。十二回にわたつての連載で大変だったと思います。本当にご苦労様でした。



私はテニスが大好きです。早く雪が解けて、思いっきりテニスをやりたいと思っています。
 ↓桂町 伊藤香織(二三)

◆：春はもうすぐそこ。何かウキウキしてきますね。
 ↓軍岡 折笠みつ子(六三)

目増しに暖かくなり、白鳥の旅立つ時期になりました。毎月の広報、楽しく読ませてください。生きる喜びを創造するまち幕別町のこと、狭き家の中にも、町内で何をしているのかもわかり、自分ながら老いの身を楽しみ励まされます。
 ↓軍岡 折笠みつ子(六三)

ほんの一言

☺：図書券あたればいいなあ。なつにはマラソンをがんばります。
 ↓若草町 田辺昌利(九)

☺：ぼくは双子です。弟と一枚ずつハガキを出しました。どちらか当たりますように。↓桂町 水野憲人(六)

☺：ぼくは弟です。図書券当たりますように。↓水野導人(六)

☺：春、待ちどおしいですね。図書券も待ちどおしいですね。↓加藤とし子(四)

☺：なんでぼくだけあたらないのだよー。あててくれー。↓あかしや町 樋口岳彦

☺：ハガキ二度目です。今度こそ図書券がほしいです。あたらなかつたらおちこみま〜す。↓桜町 東野美和(二三)

☺：図書券ほしいな。それだけ。↓あかしや町 樋口和香(二三)

新企画 聞かせてください あなたの意見

5月号のテーマは マチの活性化

広報紙では五月号から「聞かせてください」あなたの意見のコーナーを新企画としてもうけます。これは毎月テーマを設定して、それに対して皆さんが日ごろ考えていることを聞かせていただくコーナーです。ご意見ははがきか手紙で、原稿は百五十字前後でお願いします。趣旨を変えずに直すことがありますのでご了承ください。毎月六〜八人の方のご意見を掲載する予定ですが、応募が多い場合は掲載できない場合もありますのでご了承ください。

ご意見には、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を必ず明記してください。あて先は、幕別町本町130 役場内広報係です。さて、五月号掲載分のテーマは「マチの活性化」です。イベントやスポーツをとおしての活性化、商店街の活性化などマチの活性化に関するご意見をお寄せください。

小 倫 明

新校舎が完成

多目的ホールには床暖



床暖房が設備されている多目的ホール

ほか音楽室、理科家庭科室を配している教室棟と、多目的ホール、職員室、校長室、図書コーナー、保健コーナーなどのある棟の二棟建てとなっています。

昨年九月末から工事が集められていた明倫小学校（大野進校長、児童数十四人）の新校舎が二月末に完成し、三月一、二日の両日に児童、父母らによる引っ越し作業、三月十三日には落成記念式典が行われました。

総工費は約一億四千万円で、規模は鉄筋コンクリート平家建て七百二十六平方メートル。普通教室三室の

多目的ホールは約百六十平方メートルの広さで、床暖が設備されています。外側には列柱が配され、この棟と体育館が直結されています。また、廊下の天井はガラス張りです。採光なども工夫されています。

三月十三日の落成記念式典は同校体育館で行われ、学校関係者、地域住民ら約二百人が出席し新校舎の完成を祝いました。

37 ルールとマナーの徹底を

ひと

パークゴルフ協会の事務局長に就任した
おおうえ ゆうじ さん
大 上 雄 司
(宝町126・36歳)

幕別町パークゴルフ協会の総会が二月二十七日に、役員会が三月五日に行われ、事務局長に大上雄司さんが就任しました。

道内はもとより、全国から注目を集めているパークゴルフだけに、責任の重さを痛感しています。

パークゴルフは六十一年から楽しんでます。もうやみつきですね。仕事が忙しいのであまりコースには出ませんが、これですます楽しめなくなりそうです。任期中は縁の下で力持ちで頑張り、パー

クゴルフの普及に少しでもお役に立てればと思っています。

『競技人口が増えるにつれてルールとマナーの徹底が大切になってきました。そこで今年からアドバイザー制度を新設しました。普段コースで楽しんでる時や、大会の時など協会が認定したアドバイザーが助言や指導をすることになりました。コースで分からないことがあったら、気軽にアドバイザーに声をかけてほしいですね。協会の会員募集も順調にいきます。四月からも随時受け付けますので、どんどん入会してほしいですね』

昭和二十七年二月五日生まれ。



完成した明倫小学校の新校舎

笹原寿女さんから

町へ二百万円の寄付 開基百年基金に積み立て

笹原商産 錦町・笹原信勝社長
の笹原登前会長（故人）の寿女夫人がこのほど、「夫が生前お世話になりました。町の開基百年記念事



林町長に寄付を手渡す笹原さん

業に役立ててください」と町に二百万円を寄付しました。寄付には寿女夫人、笹原社長、東横プロックの笹原雅之社長の三人が役場を訪れ、林町長に手渡しました。町では寄付の趣旨にのっとり、この二百万円を開基百年記念基金に積み立てることにしています。同基金への寄付は、今回が第一号となりました。

「寄付ありがとうございます」

■町へ：

▽森田美恵さん（緑町）から十万円
■社会福祉協議会へ：

▽松田幸作さん（緑町）から五万円
▽幕別町技能士会（塚本秋夫会長）から二万一千円
▽幕別町国際交流実行委員会から二万三千五百四十四円
▽松田衛さん（千住）から三万円
■老人クラブへ：

▽岡田延治さん（宝町）から宝町老人クラブへ三万円
▽森田美恵さん（緑町）から緑町老人クラブへ五万円
▽佐伯佐七さん（旭町）から旭町老友会へ一万円
▽佐藤正一さん（緑町）から宝寿老人クラブへ二万円
▽札内寿会へ岸本隆文さん（西町）から一万円、山田英二さん（豊町）から五万円
▽牧野利夫さん（栄）から古舞老人クラブへ三万円
▽稲志別老人クラブへ松田衛さん（千住）から二万円
和泉ヒサメさん（千住）から三万円